

令和4年度

公私幼保合同研究会まとめ
保育力ステップアップ研究会



大阪市保育幼児・教育センター

ねらい

教育・保育の振り返り(自己評価)について、記録の仕方、振り返りの視点、次の保育につなげる手立て等を検討し、気付きや学びを、よりよい実践につなげていく。

講師

東大阪大学
東大阪大学短期大学部

学長・教授 吉岡 真知子

テーマ

振り返りを通して、教育・保育の充実につなげよう
～子どもの理解を深め、自己肯定感を育むための援助について考える～

内容

子どもの自己肯定感を育む、教育・保育の記録を持ち帰り、乳幼児理解に基づいた振り返り(自己評価)を通して日々の教育・保育の充実につなげる。

参加園所

たいようランド

大阪市立加美第2保育所

のぎく保育園

大阪市立阪南保育所

念法保育園

大阪市立浪速第5保育所

北津守保育所

第2住之江保育園

大阪市立磯路保育所

大阪市立木川第1保育所

クローバーひまわり保育園

大阪市立鯫江保育所

大阪市立松之宮保育所

大阪市立日之出保育所

大阪市立酉島保育所

大阪市立佃保育所

大阪市立住吉保育所

大阪市立生江保育所

新東三国保育園

研究の方法

- 一日の保育を振り返る。
 - ・一人ひとりの個別記録を書く。
 - ・毎日、自分の日誌(保育日記)として、その日の子どもの様子を書く。
- 記録を書くことで、見えてきた成果や課題について意見交流する。

実施一覧

場所：大阪市保育・幼児教育センター

回数	日時	内容
①	6月16日（木）	講義：保育の振り返りの必要性－記録をとることの大切さ－
②	7月19日（火）	子どもの自己肯定感を育む、教育・保育の記録を持ち寄り、乳幼児理解に基づいた振り返り(自己評価)をする
③	9月15日（木）	実践記録を通して各グループで話し合い、テーマの再確認
④	10月17日（月）	ステップアップ研究会の実践記録をもとに意見交流 (保育力フォローアップ研究会と合同開催)
⑤	12月12日（月）	実践記録を持ち寄り、意見交流後「1年間のまとめ」の作成
⑥	1月30日（月）	研究のまとめ作成
⑦	3月13日（月）	研究のまとめ・振り返り (保育力フォローアップ研究会と合同開催)

第1回（令和4年6月16日）

◊自己紹介

◊研究の取組について

- ・1年間 続けて実践・研究することが大事
- ・子ども理解をとことんする→保育力が高まる

↓

一人ひとりの状況をいかに理解できるかが

保育の鍵

- ・どの子どもも健やかに成長していくことが、保育の基本→自分の資質を磨く→

研究

◎講義 「保育の振り返りの必要性 ー記録をとることの大切さー」

- ・あなたはなぜ保育士を続けているのか？ 保育士という仕事の魅力について。
- ・記録を書くためのポイントー事実にそって書く。客観的に見て子どもの気持ちを理解する。
- ・指導案の作成のプロセスは、まず昨日までの子どもの姿から考えていく。
- ・子どものあそびの様子から、ねらいが達成できたかを考え振り返る。
- ・ねらいが達成できたかどうかの振り返りのポイントー具体的にどのような事実からなのか。
- ・振り返ることで見えてくる。子どもの姿をさらに理解することができる。
- ・子どもの成長の段階が、事実に基づいて見えるようになってくる。

「子ども理解」の大切さ

第2回（令和4年7月19日）

「振り返りを通して、教育・保育の充実につなげよう」
～子どもの理解を深め、自己肯定感を育むための援助について考える～

各自の記録の取組

はじめは、ノートに一人ずつ書いていたが、大変になってきたので、一人一枚メモで遊びの様子について書くようにした。クラスを全体的に見ようと意識していたが、メモを書くことにより、誰と誰がどんなふうに遊んでいるかなど細かく見れるようになった。業務時間内にメモを見て、振り返ることは難しいが、メモを見ることで子どもの姿を考え振り返ることができた。

しっかり書こうとしたが、時間がかかる。今日はこの子と決めて、範囲を狭く深く見たらいいのかなと思った。記録が重要と思っていなくて書いているだけだったが、次の日につながることもあり、記録を書いてよかったですと感じた。

記録を書くことで、こういうことがあって、こうなったということが分かった。記録をとる大切さを感じた。

職員同士で「〇〇ちゃん、こんなことしててね～」と話をするようになった。自分の気付きにもなって、よかったです。

継続していくことで、子どもを知る力になると思った。

指導助言

○記録を通して、共通したこととして、

書くことによって「子どもの姿が見えた」「次の保育につながった」「姿が思い浮かばない子どもと次の日に関わろう」と、それぞれ手応えを感じている様子が伝わった。

感じた手応えの感覚を大事にしてほしい。

○何を書いたらいいか

記録の継続により書くポイントが見えてくる。記録を取る悩みは、継続していくことで子どもの見方・捉え方が見えてくる。

○全員書こうとしなくてもいい。

メモ程度、付箋を活用する。継続していくことで、子どもを知る・気付きが出てくるなど、記録が生きてくる。保育は1日でよくなるものではない。

○子ども一人ひとりを大切にしてほしい

第一段階としては、子どもの姿のメモ書き。そこから自分にどんな気付きがあるのかが、分かる。一番大事なことは、子どもの本質を感じること。この感覚を大事にしてほしい。

泣く



「なんで泣いたんかな」「明日は、どうしてあげようかな」



自分自身に問うことは保育力を高めていくことである

見ていなかった子どもの姿は、他の先生に聞き書き留める。⇒見方の資質を高めることにつながる。
見落とさないで見ること。= 子どもを預かる使命

第3回（令和4年9月15日）①

＜実践記録を通してグループで話し合う＞

記録を読み返すことでの、前後の記録のつながりを意識した

担任間で話をするきっかけになった

質問

ネガティブにしか書けない子どもに対して、どうしたらよいか

公私両立会議研究会 第3回【保育力アップワーク】

トピック（記録子育ての印象に用いたこと）

前回	次回
印象に残った理由	印象に残った理由
全体的に記録を通して	
感心した点	感心した点
困った点	困った点

一日の姿を振り返るきっかけになった

記録していく中で、気になる姿やネガティブに捉えている部分だけを書いていことに気付いた



行事前で保育者に余裕がなく担任間でも話をする時間がないときに、ネガティブに捉えがちなのではないかと考えられる



- ・ネガティブであっても自分が感じたまま、見えたままを記録すること。その記録を読み返すことでの、自分自身も振り返るきっかけとなる。記録に残しておくことが大事。
- ・そのままを書くことで、なぜそうなったのか考えることが大切。
- ・ネガティブになっている自分に**気付くことが大事!!**





第3回（令和4年9月15日）②

<テーマの再確認と研究会を通して何を大切にしていきたいかを考える>

【気付き】

- ・対応の仕方を変えたら子どもの姿が変わった。「自己肯定感かな」と感じたことがあった。
- ・自己評価がどういうものなのか。子どもの姿は、他の先生からも情報をもらう。一人で悩んでいてもどうにもならない。
- ・子どもと一緒に過ごさないと子どもが夢中にしていることは見えない。
- ・記録をとることで、担任同士で共有できる。
- ・担任同士が、まず保育を楽しむことが大切!!
- ・子どもの行動には意味がある。保育者が子どものよいところを見て言葉にする。

★記録を書くことの大切さを再確認した。記録を保育につなげたい。

★自己肯定感を育むために、どのような保育をされているのか知り実践に繋げたい。



第4回（令和4年10月17日）①

ステップアップ研究会の実践記録をもとに意見交流 (保育力フォローアップ研究会と合同開催)

フォローアップメンバーとステップアップメンバーがペアになり、ステップアップメンバーが実践記録をもとに相談にする

他のメンバーは客観的にみて、後で気付いたことを意見交換しグループ内で共有する



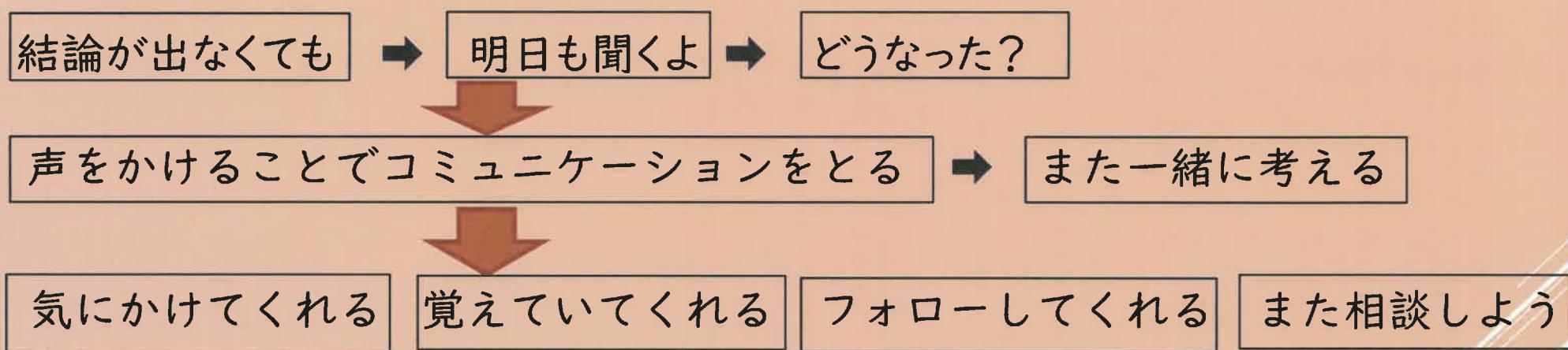
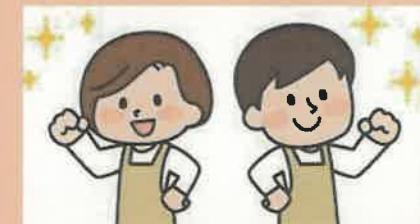
グループの実践を舞台上で発表した後
講師から指導助言をいただく



第4回（令和4年10月17日）②

《職員との関係づくり》

- ◎相談者にはできるだけたくさんしゃべってもらう。
- ◎「聞いてほしい」気持ちに応える。
- ◎相談をしっかり受けとめ向きあう。



◎玩具選びについて

- ・いろいろな情報を共有することが大切
- ・今、子どもがどんなことに興味や関心をもっているのかを知る
- ・子どもの育ちや状況をみながら、玩具を選ぶ
- ・それぞれの発達段階を意識して、時期や反応をみながら工夫する

園で保育のモデルになる
ようやってみる！！

第5回（令和4年12月12日）

＜実践記録を持ち寄り、意見交流後「1年間のまとめ」の作成＞

些細なひと言を大切にする
例：友達が泣いていたら
「大丈夫？」と声をかけていた

- ・子どもの頑張りを認める
→自己肯定感が育まれる
- ・子どもの姿を記録→**気付き**
→保育者の姿勢が変わった

公私幼保合同研究会 第5回【保育力ステップアップ研究会】	
【テーマ】頑張りを通して、教育・保育の実践について考える ～子どもの理解と深め、自己肯定感を育むための援助について考える～	
【内容】保育・教育の振り返り（自己評査）について、認識の仕方、振り返りの観点、次の保育につなげる手立て等を検討し、気づきや学びを、よりよい実践につなげていく。	
【内容】子どもの自己肯定感を育む、教育・保育の記録を持ち帰り、乳幼児見聞録に基づいた振り返り（自己評査）を通じて日々の教育・保育の充実につなげる。	
会議登録用紙 提出用紙 に用いられた 手なびや書き方	
月 日()【気づいたこと等】	月 日()【気づいたこと等】
記録や反省等をして おきたいことを書いて	

保育者が子どもの頑張りを認める
→子ども同士で「頑張れ」と声を掛け合う **【場面を大切にする】**

特別の活動の中ではなく普段から
子どもとのやりとりを大切にする
保育者との関わり→違う角度から
見ていくことが大切

「できた」「できない」は、その過程を認めて、ほめて
保育者が、愛情を伝えていくことが大切

★ 子どもを認める→保育者の言葉のかけ方が、変わってきた

★ 記録をとる→回数を重ねることで、記録の視点が分かってくる→担任同士で共有

◎各自、まとめ資料の作成→グループで見合う→全体で見合う



第6回（令和5年1月30日）

【研究のまとめ作成】

- ・自分の学びについて発表し、メンバーからフィードバックしてもらう
- ・講師より指導助言をいただく

講師からの言葉

- ・自分自身を磨くきっかけになっている。
- ・それぞれの実践を通して、素晴らしい保育者になる。
- ・各園所で、若い人達、先輩にも、記録をとる意味、発見したこと、手応えを感じたことを伝えていく。
- ・記録 → 子ども理解 → 保育の実践
- ・保護者も一緒に理解する。<保護者と共に>

最終回（令和5年3月13日）

フォローアップ研究会参加者と互いの学びを振り返り交流する
(保育力フォローアップ研究会と合同開催)

ステップアップメンバーの学びを
報告し、フォローアップメンバー
がフィードバックする



報告について講評を
いただく



～学びとなつたこと～

研究会メンバーによるまとめ資料

日々の記録を書くことで見えてきたこと

◎実践記録を取ってみて

- ・日々の姿の記録をとることで、子どもたちの様子やどんな遊びを楽しんでいるのかということがよく分かった。
- ・全員の姿を記入する時に、その日のクラスの状況により姿が思い浮かばないということもあったが、次の日にはその子を意識して関わるよう心掛けた。また、担任間で伝え合い、子どもの姿を共有することができた。
- ・一人ひとりの姿をより丁寧に見ようと意識するようになり、子ども理解が深まった。

◎記録の取り方

- ・メモ書きでもよい。継続していくことが大事！
- ・子どもの姿をしっかりと見て書き留める。
- ・気になったことをメモする→どうしてかな?と考える→その姿に対し自分はどうするのかを問うことが大事。

◎課題

- ・記録を取る時間の確保が難しい。
- ・空白になったりネガティブな内容になったりする。

◎課題に対して

- ・書くポイントを絞って記入する。ねらいに対してどうだったか、生活面、困り感、人間関係など見る視点を決めて記入することで、より分かりやすくなるのではないか。
- ・ネガティブな内容であってもなぜそうなったのかを振り返ることで、次の手立てを考えることができた。ありのままの姿を記録し、真の姿はなぜなのか?と気付きをもつことが大切。

◎今後保育者として大事にしたいこと

- ・一人ひとりの姿に応じて丁寧に関わり、保育所での生活を安心して楽しく過ごせるようにしていく。
- ・子どもが今何に興味をもっているのか、何を楽しんでいるのか、状況を理解しながら「楽しかった!」「またしたい!」と思える保育をしていく。
- ・日常の姿を振り返りながら保育者間で連携を取り、様々な視点のもと、子どもに合った手立てや支援を考えていく。



◎学びになったこと

- ・子ども理解が大切である。子どもの姿を通して保育を振り返り、意識して関わっていくことで自己肯定感が育まれていく。子どもの成長発達をとらえ、じっくり観察していくことで主体的な保育へつながっていく。

日々の記録を通して見えてきたこと!!

＜自分で個人・実践記録をとってみて＞

- ・個々の子どもの特徴が見えた。
- ・子どもの今、興味をもっていることに気付けた。
- ・自分の保育の振り返りになり、必要な配慮や工夫を考える機会になった。

＜研究会の方と意見を共有してみて＞

- ・他の方の記録を見て、文章の表現や書き方が参考になる。
- ・ねらいが具体的なものほど配慮や子どもの姿が捉えやすい。
- ・子どもの気付きを見出し、次の保育に活かすことができる。
- ・ねらいに沿った働きかけをしっかりと考えていくことが大事。

＜課題＞

- ・記録をとる上で、子ども本来の姿ではなく、保育者の意見が入っている。
- ・記録を書く時間がとれない。
自分の休みは記録がとれない。
- ・活動したことのみで、気付きなどの記録ができていない。 等

＜成果＞

- ・子どもの言った言葉や姿をそのまま書くことで本来の姿が見られるようになった。
- ・長々と記録を書くのではなく、出来るだけ簡潔にまとめてことで、時間がない中でも振り返りやすい。
- ・気付きを書くことで、次の日にどうしたらよかつたかなど、次の保育へつなげていくことができる。

＜今後大切にしたいこと＞

研究会での学びを生かし、子どもたちの日々の姿を観察して、気付きやひらめきを認めながら子どもと共に成長を喜び、様々な視点からの支援を考えていく。



日々の記録を書くことで見えてきたこと

<成果>

- ・一人ひとりの子どもの様子をしっかり見るようになった。
- ・子どもが興味をもっていることに気付けた。
- ・自分の保育を客観的に見ることができ、必要な配慮や工夫を考える機会になった。
- ・ねらいの達成にこだわらないことで、冷静に子どもを見るようになった。
- ・一つの遊びの提供ではなく個々の興味や関心を把握しながら複数の遊びの提供を考えるようになった。

<課題>

- ・個別で書くことで細かい部分まで見ることは出来たが、一人ひとり見ることが出来なくて苦労することもあった。
- ・個々の振り返りや職員間で振り返りをする時間がなかなかとれなかった。
- ・目立つ子どもに視点がいってしまいがちなので、今後も継続して日替わりで見ることで他の子どもも観察できると思う。



今後、保育者として大切にしたいこと

- ・保育を振り返ることで、子どもに寄り添う保育の大切さに改めて気付いた。今後も生かしていきたいと思った。
- ・子どもの発達を理解した上で、目の前の子どもの欲求や興味を保育に取り入れられるようにしていく。

保育者という仕事の魅力は？

- ・子どもの成長を感じ、子どもの笑顔からたくさんの元気をもらっている。
- ・子ども目線での想像を超える面白い発見が見られる。

◊個人記録をとるときの My ルール◊

- ①メモでもOK!
- ②毎日15分と時間を決めておく。
- ③一人の子どもを1日ごとに、横に並べて書く。
- ④他の担任の見たことも記録する。



◊結 果◊

- ①小さなことでもメモに残しておくことで、日々の子どもの変化に気付くことができた。
- ②15分と時間を決めて行うことで、負担に感じることは少なかった。
- ③横並びに記録していくことで、数日前からの遊びのつながりや、変化に気付くことができた。また、書けない子どもにも気付くことができた。
- ④実際に記録を取っていない子どもの姿についても、自然とクラスの子どもについて話し合う時間となった。

◊日々の個人記録を書くことで見えてきたこと◊

- ・毎日継続して書いていくことで子どもたちが何に夢中になっているのか少しずつ見えてきた。
- ・生活の中で、どういった支援やサポートをすれば良いのか、担任同士で共通認識ができた。
- ・その日の記録をとることができなかつた子どもも書式に表すことで、「次の日はじっくり見てみよう」と思うことができた。
- ・記録を残すことにより、振り返ることができ、「なぜそのときは○○していたのか」等、さかのぼり考えることができた。



◊自己肯定感を育むために大切にしたこと◊

- ・ハイタッチをしたり、ぎゅっとハグをしたりなどのスキンシップや、「見て!」といった子どもからのアイコンタクトを見逃さないようにし、「やったー!」「もう一回見せてくれる?」等、声をかけた。
- ・送迎時等に、今日の出来事を保護者に伝え、育ちを共有した。
- ・記録を通して、子どもたちが夢中になっている遊びを知り、一緒に楽しんだ。

◊研究会に参加して…◊

- ・子どもたちがありのままの自分を出すことができる環境を作っていくことが大切だと思った。
- ・子どもたち一人ひとりの個性を知ることが重要だと思った。
- ・個人記録を通して、肯定的に見ることが増えてきた。
- ・保育者同士、工夫しているところ等を語ることで、自分の保育を振り返ることができた。

◊保育者として大切にしていきたいこと◊

- ・一人ひとりの子どもに添った支援や、したいこと・夢中になっていることを知り、それを提供できる環境づくりを心かけていく。
- ・メモや記録をとり、日々の保育の振り返り、自身の保育の振り返りを大切にしていきたい。
- ・子どもたちのありのままの姿を保護者と一緒に喜び合い、自己肯定感が育まれるようにしていきたい。



<子どもの自己肯定感を育むための援助について>

○子ども一人ひとりの様子を記録しよう！

実際に記録した時の疑問を書いて、そこからの変化や気づきを記しました！

<Q1>

- ①記録？！見てたら分かるし、書くのがめんどくさい…。
- ②私も全く同じ印象でした。実際に子ども一人ひとりの記録を書いていて「いんどい…」「今日はもう疲れめ…」と思いました。
- ③そもそも日頃の忙しさで書く時間ない！
- ④そうですね、忙しくて書く時間ないですね。
ですが、続けていくとある日「あれ、〇〇ちゃん、これでまるよくわかる」とこの子いつも同じ遊びで飽きないのかなと気になってきました。
そこから子どもの様子を知る為に、関わりを増やしました。

<Q2>

○そもそも何を記録するの？

- ①子どもの様子や事をです。例えば「砂場で料理して一人遊んでいた」とかですね。
- ②え！そんな大丈いいの？
- ③これを続けていくと「砂場で友だちとあまりことを楽しんでいた」と記した時、成長を感じます。そして じゃ遊びを深める為にどうしようかと考えるようにになりました。
- ④ということは、振り返りが大切になるの？？
- ⑤そうなんです！！振り返ったことをたれぬけに記録します。

○振り返りの必要性。

例えば、噛みつきがあった子どもに対して「なぜ噛みつけたのか？」と前後の状況や環境、保育者の配置をかけて整理した時に

あれ、ここをこうしたら次は不會ださう！」や「部屋が広くて走っちゃうから落着けなかつたのかな？」⇒マトを敷いてコーナー遊びを作ろう！

↳頭の中だけ整理するだけでは思いつけない方法がある！
文字にして書き起こすことごとで状況が整理されて、「意外に気つけなかつた」と盲点だったことが分かる！

次、気をつけないと反省するだけでなくなぜそうしたのかとしっかり振り返って、次に生かす。

○まとめ。

子どもの自己肯定感を育むためにも、

○子ども一人ひとりの様子を記録しよう！

○振り返って、文字にして記すことごとで次に生かそう！

どんな子どもの聲でも、まずは認めてあげることが自己肯定感が育まれる。
ただ単に「すごい！」とかではなく「Aちゃん、〇〇できてすごいね！」と具体的かつ
子どもに伝わる分かりやすい文で見て言う！
危ないからダメと子どもの行動を止めるのではなく、まずは観察を！
様子を見守ることから始めてみてほしい！

日々の記録を取ってみて

*課題

- ・どのような視点で記録を取ればよいのか
- ・記録する時間を取りするのが難しい
- ・毎日記録を書けない子が出てくる



*見えてきたこと

- ・一人ひとり見ているはずが子どもによってはエピソードがなく記録が書けない日があることに気付きその子により関わろうとするように心がけるようになった
- ・記録を取っていくうちに子どもたちの育ちが細かく分かるようになった
- ・子どもの興味のあることの変化が分かるようになった
- ・記録を見返し自分の関わり方、言葉のかけ方を変えてみたり子どもたちの頑張りが分かるようになり自分自身、少し変わったと思った
- ・個人カリキュラム・経過記録等書くときに役立った

*課題に対して

- ・毎日子どもたち一人ひとり何でもよいのでその子のエピソードを記録に残すことにした
- ・保育中は時間が取れないで自分のメモ帳にエピソードが思い出せるような言葉を短くメモしておき仕事が終わってから記録した



*研究会に参加して学びになったこと

- ・自分の保育の悩みについて相談したとき助言してもらえた違った見方で考えられるようになった
- ・他園の先生方と関わることがないので1年間通じて参加し共に学びを深めることができ自分も頑張ろうと思えた

*今後大事にしたいこと

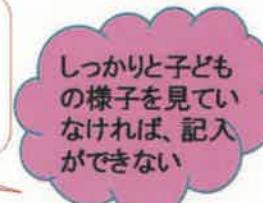
- ・子ども一人ひとりに応じた丁寧な対応を心がけていきたい
- ・子どもがもっとやりたいと思えるような保育を考えていきたい
- ・子どもの育ちを保護者とも共有し信頼関係を深めていきたい

1. 保育の振り返りの必要性～記録をとることの大切さ～

子どもを理解するために

◇毎日の子ども一人ずつの姿をメモ書きする。

- ・一日の生活の中で、子どもはどんな姿だった？
- ・子どもはどんなことをつぶやいて、何を考えていた？
- ・何に興味をもって過ごしていたか？
- ・どんなことで、どんなふうに遊んでいた？



<ポイント>

1. 客観的に観察しながら、事実に添った内容を記入する。

自分の感情を入れずに、子どもの「心」にそって記入をするために
保育者が言葉を添えて気持ちを引き出せるようにする。
否定的な内容でもそのままの事実を書き、その後の子どもの変化が
分かるようにする。

2. 客観的に見て、子どもの気持ちを理解しようとする。

保育者の想像にならないで、根拠のある記載をするようにする。

3. 課題をどうやって対応していくか

・記入のポイントは？

印象に残ったできごとや、つぶやきを記入する。

年齢の発達を意識して記入をすることで、子どもの育ちが分かりやすい。

・記入する時間は？

端的な内容にして、あまり時間を取らないで記入ができるようにする。

例)午睡中、通勤中の携帯のメモを活用するなど

・事実をどういうふうに記入する？

子どもたちの姿には原因や意味があると思うので、そこを意識して気持ちに共感していながら記入する。

そこからの経過を意識して、子どもの変化に気付き子どもの姿を肯定していく。

そのまま記入することで、本来の子どもの姿が見えてくる。

・全員を記入する難しさ(エピソードがある子とない子)

空欄になる子どものエピソードを見つけるために、日頃の様子をより意識して
見ていけるようになるので、子どもの姿に気付けるいいチャンスになる。

2. 毎日の記録から見えてきたもの

<成果>

- ・一人ひとりの子どもの様子をしっかりと見る意識ができ、子どもたちといろいろなことを共感しあえる。
- ・子どもの発達の様子がとてもよく分かり、子どもの変化(成長・気持ち)に気付きやすい。
- ・様々な場面で活用することができる。(個人懇談、月案、日案、児童表など)
- ・保護者と子どもの成長と一緒に感じあえる場面ができる。

<課題>

- ・どこにポイントをおいて書いたらいいのかわからない。
- ・記入する時間がとりににくい。
- ・メモ程度では、内容が浅くなってしまう。
- ・事実をどういう書き方をすればいいのか。
- ・エピソードのある子とない子がいて、全員を書くのが難しい。
- ・複数担任での振り返りや気付きを共有しにくい。

4. 子どもの姿を書いて気付いたこと、悩んでいること

<気付いたこと>

始めは毎日の記入をすることに対して、「時間がない」「すごく大変」という気持ちで取り組んだ。しかし、毎日記入していくうちに習慣化していく、書き方もあまり難しく考えず記入した。子どもの成長を書面化すると成長や発達などに気付きやすく、そしてその姿に自分が保育者としてどう接していくかを改めて気付けたと思う。何事にもゆとりをもって保育に携わることの大切さを感じた。

<悩んでいること>

職員間での子どもの姿を共感するのが難しい

いろいろな視点から子どもたちの姿を見て、子どもが楽しく過ごせる環境をつくり、職員が子どもの成長を感じ合えるようにしながら、一人ひとりの姿を大切にしていきたい。

テーマ 振り返りを通して、教育・保育の充実につなげよう。
～子どもの理解を深め、自己肯定感を育むための援助について考える～

【記録を書くことで見えてきたこと（気付き）】

成果

- ・記録をとることで、子どものことを意識的により知ろうとするようになった。
- ・書くことで、自分がどういう気持ちで関わっているのか、主観的や偏った見方をしていないか、又自分が困っていることなどを自己の中で認識したり、考えたりすることができた。

課題

- ・書く人数が多いと、空白になってしまう子どもがいる。
- いつも見えやすい子どもと見落としがちな子どもの意識化。

【研究会に参加して学びになったこと】

(成果・課題を通して)

★子どものケアやフォローをするために、子どもを理解することがとても大切である。日々の記録をとることで、人となりをよく知り、一人ひとりに合わせて、気持ちを共感し、褒める、子どもの頑張りを認めていくこと。そして、一人ひとりに対しての理解を深め、それぞれにあった関わりを行うことで、それらが自己肯定感を育むことにつながっていく。更に、振り返ることによって、保育の見通しをもてるようにし、次の保育に還元していくこと。



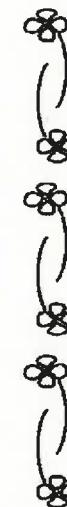
【研究会（グループ）で記録を共有してみて】

成果

- ・子ども理解の手立てとなる。
- ・自分の保育の見直し（振り返り）ができる。
- ・認めることができるとても大事であると改めて意識できた。
(声掛け etc…)

課題

- ・記録を通して担任同士で共有し合うことがとても大切だが、複数担任だと時間を合わせてとることが難しい。



【今後、保育者として大切にしたいこと】

- ・子どもの発達をしっかり学び、発達の様子や子どもの興味に気付き、子どものことを知れるよう、常に意識しながら見守っていく。
- ・子ども一人ひとりに合わせた対応や援助を心掛けていく。さらに、保育者もゆとりをもって子どもと向き合うことを大切にしながら、子どもに寄り添う保育をできる限り丁寧に実践していく。
- ・子どもの自己肯定感を育んでいけるよう、大切にされていることを子ども自身が感じられるように、保護者と一緒に考えながら関わっていく。
- ・保育の記録をとり、振り返りをし、日々の保育に返していく。

子どもを理解することがとても大切で、結果的に子どもの自己肯定感を育むことにつながっていく。

日々の保育の振り返り

取り組んだ内容

- ・子どもの様子や姿を記録する。
- ・出された課題に取り組む。
- ・記録や課題についてグループ内で共有する。

見えてきたこと・気付き

- ・毎日記録を取ることがしんどかったが子どもの姿をよく観察しようと思えるようになった。
- ・何事もそつなくこなす子どもは様子が思い出せない。
- ・自分自身では見えない子どもの様子や気付がある。

新たな課題・改善点

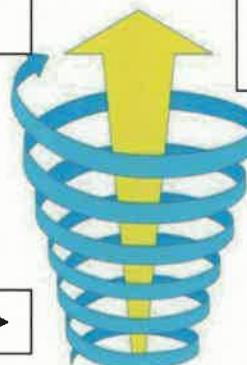
- ・その日、見ていなかった子どもの様子も把握していくつでも対応できるようにする。
- ・日誌や連絡帳を見返して状況がわからない、疑問点などは記録者に聞いて子どもの様子を把握するようにする。
- ・他の保育者の記録を見るだけでなく、自身が書いた記録も他の保育者に見てもらうようにして、全保育者が子どもの様子を把握できるようにする。

実践

- ・毎日記録を取ることがしんどかったので各クラスの日誌や連絡帳を記録代わりにした。
→自分だけでなく他の保育者にしか見えていない子どもの姿が把握できた。
- ・様子を思い出せない子どもの様子をしっかり観察するようにした。
- ・記録に空白が目立つ子どもの様子は他の保育者に聞いて様子を把握するようにした。



イメージ図→



まとめ

保育に正解はない！！

課題が見えたなら課題解決するために考えて実践する。

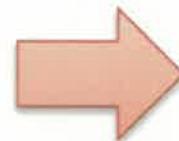
実践して終わりではなく実践結果を振り返って改善点を見つけより良い保育が行えるようにしていく。

子ども理解を深める保育の振り返り ~日々の記録を書く中で考えてきたこと~

記録を書くこと

実践の中から出てきた悩み

- ・ どう書いたらいいのか分からない
- ・ 書く時間がない
- ・ 毎日、書けない クラス全員を書けない
- ・ 每日、同じような内容になる
- ・ 肯定的に書くべき



悩みの中から考えてきたこと

- ・ まずは書いてみる、そして継続する。
 - ・全員書けなくても・同じような内容になってしまっても
 - ・短い文章でも・毎日書けなくても
- ・ 自分の書きやすい方法で書いてみる
表を作る、メモ書きにする、スマホやパソコンで作成する
- ・ 肯定的な内容も、否定的な内容もありのままに書く

記録をすることで考えたこと

- ・ 一人ひとりの子どもの姿
- ・ なぜそうなったのかを考える
- ・ 次はどうしていこうか
- ・ 空白の多い子どもがいる



- ・ 子ども理解が進む
- ・ 保育の振り返り
- ・ 保育力の向上
- ・ もっと、関わろうと意識できる

自分自身の保育の振り返り → 保育を磨く

保育所全体で、どう共有していくか

- ・ 他の人から見た子どもの姿を聞く
 - 新しい視点を知る
 - 子どもの全体像がわかつてくる
- ・ 短時間で焦点を絞って相談する
 - 一人で抱え込まない

さらにより良い保育となっていく

今日からできること

- ・ 一人ひとりの子どもの姿をありのままに捉えて、日々の保育を振り返り、保育を磨いていきたい。
- ・ 日々の保育のなかで、子どもたちが小さな「できた」を積み重ねて、自己肯定感を育んでいきたい。
- ・ 子どもたちとも保護者とも保育者とも、一緒に成長を喜び合えるようにしていきたい。

保育をするにあたって大切なこと

～人と人のつながり～

① 記録・振り返り

- 子どもの姿を記録し、自分で振り返りをすることで普段は見えていない子どもの姿が見えてくる。また、それを担任同士や他の職員間で話し合い、意見を共有することで、より子どもの発達過程が見え、保育の見直しにつながる。
- 保育をしている中で毎日の記録が難しいことも多い状況ではあるが、毎日子どものエピソードや姿を出し合い、お互いに情報を共有しておくことが大切である。
- 振り返りは自分で行うことも大切だが、時には第三者と一緒にを行うことで、自分では気付いていないことや新しい保育観を知ることができる。

② 人とのつながり・関わり

- 保育者という仕事は自分以外の考え方や意見を素直に受け止める仕事と感じる。大人同士が意見を受け止め合えるからこそ、子どもたちの思いに寄り添うことができ、関係性を育んでいけるのだと思う。
- 職場内で気軽に話せる関係づくりを行い、子どもの話だけではなく日常的な会話や悩み相談から徐々に関係をつくっていくことが大切である。
→1人にならない、1人にさせない環境をみんなでつくっていく。
- 保育をする中での悩みや不安を自分だけのものにせず、時には保育所(園)全体の課題として会議などの場で話し合うことも、職員同士の関係性を築く。

③ 研修での学び

- 子どもの自己肯定感を育てるための保育とは…。「できた」「できない」と結果だけに着眼点を置くのではなく、それまでの過程をしっかり観察して受け止め、姿を認めることで子どもの自信や達成感につなげていくことが重要になる。
- 大人が決めた基準、都合で子どもを動かさないために考慮すべきことは…。設定保育や日々の生活の中で、担任は子どもの成長や発達過程を観察しながら「ねらい」を考え、保育にあたる。しかしその「ねらい」に子どもを近づけるのではなく、日々成長していく子どもの姿に合わせて「ねらい」を変更、修正していく必要がある。

④ どんな保育をしていきたいか

自分が理想とする保育は、職員同士や子ども同士で誰もが自分の意見に自信をもって発言できる環境をつくっていくことである。だが、自分一人がそうしたいと願っているだけでは状況は何も変わるものではない。まずは担任同士が些細なできごとでもすぐに話せるような関係性を築く。そして、そういう関係性を他クラスの担任にも広げていき、お互いの悩みや相談など言い合えるようにする職員集団つくりが大切である。

また、子どもについても自分に自信をもって発言できるようになるには、その子どもの自己肯定感を育てていくことが大切と考える。そのためにも保育者は子どもたちが安心して自分の思いや要求を出せるようにしっかりと受け止め、愛着関係を築いていくことが大切である。関係性つくりは決して焦らずに、まずは「遊び」の中からゆっくりと関わるようにしたい。いつでも子どもと一緒に楽しむことを忘れずにいたいと思う。

個人記録・実践記録・日々記録をかくことで見えてきたこと(保育の振り返り)

(成果)

- ・記録をとることで子どもたちをより丁寧に見て、保育するようになった。
- ・子どもたちが今何に興味があるかをしっかりと考えるようになった。
- ・クラス間でも子どもたちのことを深く話したり、見る視点を考えたりするようになった。

(課題)

- ・1日の保育の中でどの部分に視点をおくか。
→次の保育につながるように。



(課題に対してどう対応していくか)

- ・クラス担任間で話し合って、その日の子どもたちの視点を考えてみる。

(今後、保育者として大切にしたいこと)

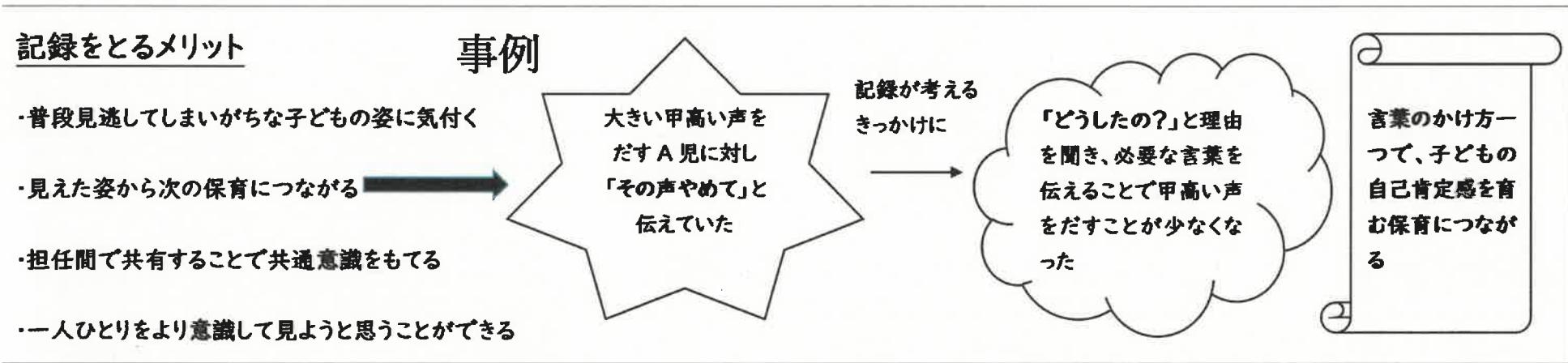
- ・子ども一人ひとりに対しての丁寧な関わりや言葉かけ。
- ・子どもたちとの共感。
- ・ゆとりをもって保育していきたい。

(保育者という仕事の魅力は?)

- ・日々の保育を通して、子どもたちの発達を見ながら成長を感じられる。

ステップアップ研究会 まとめ

①一人ひとりの子どもの記録をとったことでの気付き



②自己肯定感をはぐくむ保育、大切にすることは...?

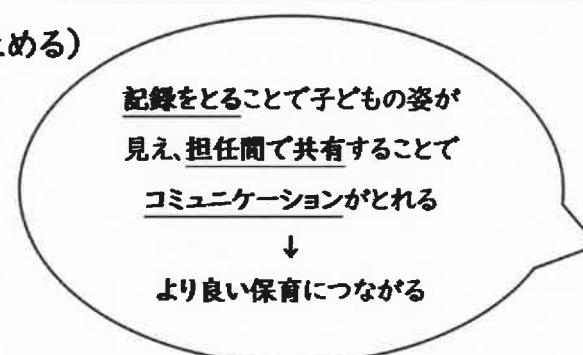
☆身近な大人の接し方(伝えようとしていることの気持ちを受け止める)

☆できた、できなかっただけではなく、過程を大切に

☆大人との関わりから子どもたち同士の認め合いへ

課題

- ・時間がない
- ・全員分書くことが大変



子どもの自己肯定感を育む

★振り返り(記録)を通して見えてくるもの

- ・子どもの姿から子どもの思いに気付く



援助、声掛け、視点を変えて子どもと接する

子どもの姿が変わる

笑う、泣き止む

やりとりができる



気持ちを共有、共感



自己肯定感が育まれていく



《事例》

- ・食べることに興味がなかったり、給食になると泣き始めるA児(0歳児)
→食べることや食べる時間が楽しいと思えるよう、見守ったり言葉をかけたりする

→「楽しい」って何?

A児はどう思っているの?

自分で食べたい、食べたいものを食べたいときに食べたい

↓
保育者との安定した関係の中で食事ができるように見守っていく

↓
食べるときに泣かなくなった

「おいしいね」と言葉をかけると、身振りをして笑って応える

(子どもの変化)

- ・手づかみやスプーンですくって食べる姿が増えてきた
- ・機嫌よく食べられるようになり、食べることを楽しんでいる
- ・保育中「ぎゅーして」「絵本読んで」など、仕草で伝えることが増えてきた

(取り組んだこと)

- ・家庭での食事の様子を聞いたり、保育者に相談した
- ・食事の時だけでなく、意識して子どもとの関わりをやふれあいを大切にし、安心感をもち安定して過ごせるようにした

＜まとめ＞

- ・普段の関わりが、様々な活動の場面とつながっている。
- ・振り返りをしたことで、子どもの気持ちを深く知ることの大切さが分かり、援助の手立てとなる。
- ・子どもの気持ちに対してどう関わるかを考え、気持ちに沿った援助や声かけ、関わりを意識し、気持ちの変化を大切にしていくことが、保育者として大切にしていきたい部分。

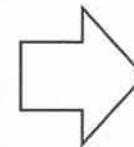
＜課題＞

- ・記録が書けない子どもがいる。
- ・記録を書く時間の確保が難しい。
- ・0, 1歳児の自己肯定感を考えたとき、難しかった。

～日々の保育と記録～

○子ども一人ひとりの姿を記録する

- ・箇条書きなどメモ程度でもよい
- ・生活や遊び等いろいろな場面を書く
- ・気になる姿があれば、自分なりに考察する



○成果

- ・これまで以上に子どもの様子をじっくりと見るようになった
- ・子どもの様子を振り返る中で一日の振り返りもできた
- ・子どもの些細な変化や成長に気が付きやすくなる
- ・児童票の記載など記録を参考にできた
- ・子ども理解につながり、日々の保育計画に活用できる
- ・自己肯定感を育む関わりを意識するようになった

○課題

- ・記録を書く時間や振り返る時間を作れないことがある…
- ・姿が浮かばず空白になってしまう子どもがいる…

○記録を通しての気付き

- ・子どもの姿を振り返る中で保育者の意見や感情が入ってしまっていることがある。
- ・心のゆとりが豊かな関わり、言葉掛けにつながる。
- ・記録が子ども理解につながり、保護者と子どもの姿を共有していく中で信頼関係を築くきっかけとなる。

○今後の目標！！

執った記録から子どもの姿や育ちを理解し、子どもの主体性を育む遊び・保育計画を立案できるようになりたい。気付いたことを担任や職員間で共有しながら、いろいろな人の視点で子どもの成長を見守っていきたい。

○改善

- ・記録する頻度を二日に一回や一週間に一回など無理なく続けられるようにする
- ・空白を埋めることに固執せず、空けたままにし、次の日たくさん関われるようにする

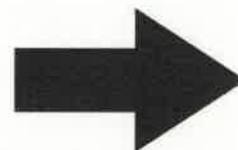
他の保育所の様々な年代の先生と交流する貴重な経験ができた。質問（相談）コーナーでは、たくさんのおもちゃのアイデアやアドバイスをいただき、私自身の大きな学びとなった。この学びを日々の保育に応用していきたい。

～振り返りを通して、教育・保育の充実につなげよう～

はじめは…

- ・記録が難しい
- ・何に焦点を当てて書けばいいのか分らない
- ・毎日、全員のことを記録していくのは難しい
- ・時間がない

など



改善していきたい

- ・考えすぎず、思ったままを書くこと
(付箋に書くくらいのメモ程度でもいい)
- ・全員じゃなくてもいいのではないか
(書いていない子どもに気付けば、次の日に
書いてみる)



思ったこと

- ・職員間で共有する時間の確保が難しい
→会話の中で子どもについての話ができるれば職員間のコミュニケーションを図ることができるのではないか
- ・ステップアップ研究会を通してメモをとって振り返りにつなげることを実践したことでメモをしていなかったことも保育の中で以前に比べ、自分自身で考えるようになり、保育力を高める時間になったと思う



記録をとって気付いたこと

- ・メモを取ることが頭にあると流されてしまいがちなことが記憶に残る→子どもの関わりに繋がった
- ・自分自身の振り返りにもなる
- ・何かに焦点を当てずにそのままの姿を書くことができ、常に疑問をもって関われる



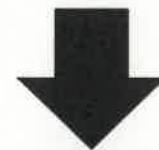
～個人記録・実践記録・日々の記録を書くことで見えてきたこと～

＜記録してみて分かったこと＞

- ・記録を続けることで保育の振り返りができ、次の保育につなげることができる。
- ・一人ひとりの成長を感じることができる。
- ・“子ども主体”を意識し、一歩さがって子どもたちを見守ることができます。
- ・子どもたちにとっての、必要な援助が見えてくる。
- ・しっかり子どもたちを見守る中で危険を察知できるようになり、保育につながる。

＜見えてきた課題と対策＞

- ・同じ子どもの記録が多くなってしまう。
→記録対象の子を、一週間ごとなどで変えていく、できるだけ多くの子どもの記録がとれるようにしていく。
- ・勤務時間内に記録をとることが難しい。
→簡潔にまとめられるようにする。メモ程度でもよい。
- ・記録のとり方が難しい。
→毎日継続して記録をとることで、書き方が分かってくる。
- ・どこにポイントを置いたらよいのか分からない。
→テーマは決めなくてもよい。ありのままに記録していくとよい。



これらを踏まえて、これから大切にしたいこと…

- ・保育を日々振り返り、現在の子どもの姿や思いに寄り添った保育をしていく。
- ・子ども一人ひとりにあった対応や支援を考え、丁寧に関わっていく。
- ・心にゆとりをもち、子ども主体の保育を大切にする。



記録をとってみよう

○どんなことをメモするのか分からぬ

→例えば…

- ・子どもの様子
- ・子どもの日々の呟き
- ・子どもとの関わり

etc…

なんでもいい！！

実際やってみて…

○メモをとるって大変！

- ・日々の保育、保育準備、事務作業等…時間がない！
- ・行事前は特に時間がなく、悪いことばかり記入するようになってしまった
- ・乳児クラスは特に生活メインになってしまって書きにくい



反省・改善案

○全員書かなくてもいい

- ・1行でも書くことが大切
- ・複数担任なら自分が見ていない姿を聞いて記入するのもOK
- ・その日書けなかった=その子どもを見られていない=その子を意識してみるきっかけにする

○書く内容はなんでもいい

- ・悪いことばかりになってしまっても自分の心の余裕のなさに気付くことができる
- ・読み返すことで、なぜその姿になったのか考えることが大切

教育・保育の振り返りを続けることによってどう変化したか？

- ・メモをとることによって、自分がどの子どもにどの程度関わっていたのか、見ることができていたのが分かる
- 意識的に全ての子どもに関わるようになった
- ・子どもの成長を残していくので、いつどのように〇〇ができるようになったのか過程が分かる
- 児童票に役立つ



自己肯定感を育むための援助とは？

○日々の何気ない言葉かけで生まれる

- ・できたときに「できたね」よりも毎日「今日も頑張ってるね」「うまくなってきたね」「〇回できるようになったね」等の言葉かけがいい
 - ・日々記録をとることで子どもの様子、過去よりもできるようになっている成長が分かりやすくなる
 - ・言葉かけもしやすくなり、子ども一人ひとりと関わるようになる
- 記録をとることで…
- ・子どもの様子をじっくり観察するので子どもとの関わり方や環境を変えるときの判断材料が増える
 - ・子ども一人ひとりにじっくりと関わることも増え、日常的に保護者にも話す内容ができ、子ども、保護者との信頼関係を築きやすくなる



一人ひとりを観察する能力が全体を守ることになる

保育力スタッフアップ研究会

=記録による振り返りを通して、子どもの理解を深め、自己肯定感を育む援助について考える=

何のために記録をとるのか

よりよい保育をするために、「子ども理解」ができるかが鍵
 記録をとる = 子どもをよく観察する
 ☆子どもを見る人間性を磨くことが大事
 →子どもの興味・関心が何かを掴む

記録のとり方

一人ひとり個別の記録を毎日書く
 ・事実を観察し、客観的に書く
 ※自分の願い（こうであってほしい）が入らないように
 ☆子どもをしっかり観察し、子ども理解を深める

記録をとる中で・・・

「日々の保育の中で毎日全員分の記録をとるのは大変！」
 ・書き続けられるよう、楽な書き方の工夫
 ・メモ書きで子どもの姿を拾う、そのやり方に慣れていく
 →それに対する気付き、子どもは何故そうしたのかを考察

☆自己肯定感を育む援助とは

- ◎子どもを理解する 「何が好き？何に興味をもつて？」
 → 子どもの姿（興味）に合わせて援助を考えていく
- ◎子どもの頑張りや過程を認める
 → 生活の中でのささいな一言、言葉かけから意識をもつ

☆自分自身を分かってもらっている、自分は認めてもらっているという愛されている実感につながる=自己肯定感

記録からの気付き・学び

記録1

おやつの時間、保育者がコップにお茶を注ぐ際に少しこぼしてしまった。「ごめんね」と保育者が謝ると、「謝らなくてもいいよ」「そんなこともあるよ」と慰めの言葉をかけてくれた。

子どもが何か失敗するようなことがあると、気持ちが落ち込む前に、「そんなこともあるよね～」など声かけしていた。子どもから保育者へ向けてそのような言葉が出てきたことには驚いたが、自分自身に向いてもネガティブに思わずそのように考えていいかいいと思う。

☆日々の言葉かけが大切で、何気ない言葉が子どもの中に残り、心を育んでいく。



：学びとなったこと：



★記録を書くことで★

- ・子どもたちのことを、今まで以上に意識してみるようになった。
- ・「なぜ、この行動をしたのか」「保育者として、どう接するべきだったか」と自分の保育を見直す機会になった。
- ・一人ひとりの興味・関心を知り、子ども理解が深まり、一人ひとりに応じた関わりができるようになった。
- ・次月の保育をどうしていくか、より考えるようになった。
- ・「自己肯定感」を育む⇒できた、できないではなく、過程を大切にすることに気付いた。

大切

子どもを見ようとする力

大切

子どもの行動について考えること

★研究会に参加したこと★

- ・記録を通してグループで話すことで、自分では気付けなかった考え方気付くことができた。



指導講評

この研修のテーマは「保育の振り返りを通して、教育・保育の充実につなげよう」です。幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている内容を基に、小学校の入学までの就学前教育において「幼児期に育みたい資質・能力の3つの柱」① 知識及び技能の基礎。② 思考力、判断力、表現力等の基礎。③ 学びに向かう力、人間性等。これらの資質・能力を育みます。

したがって、「日々の教育・保育の実践がどうであったか」「子どもたちに育みたい資質・能力が十分実践できたか」を保育者として振り返り、次の保育の改善に努める必要（責任）があります。そこで、保育に活かすための「保育の振り返り」を意識するために「保育の記録」「一人ひとりの子どもの姿の記録」を書いてみようということにしました。

研究会メンバーが記録したものを持ち寄り、次の保育につなげる記録のとり方や、記録することで見えてきた成果を話し合い1年間研究してきました。その成果が本資料です。「記録をとる」ということは、日々の業務の中では時間が足りず大変ですが、記録をとることで、子どもたちの姿や、保育者の援助がより具体的に見えてきて「保育の魅力」を感じ取っていたいたいように思います。そして何よりも、研究会メンバーは、「一人ひとりの子ども理解」「保育者の丁寧な援助の方法」が身に付き、保育者として大きな宝になったことでしょう。

1年間、保育の研究を重ね、より保育者として成長していただけたのではないかでしょうか。

東大阪大学 吉岡 真知子

